

秋田南バイパス整備事業

受賞機関 国土交通省東北地方整備局秋田河川国道事務所

はじめに

秋田南バイパス（約8.5km）は、平成15年3月に全線供用（暫定2車線）が図られた。工事にあたり、市街地での形成がめずらしいサギ類のコロニーへの配慮、自然エネルギーの活用、間伐材の活用など環境に配慮した対策を実施している。

また、バイパス整備により、旅行速度が大幅に向上し、市街地の渋滞も大幅に緩和された。

計画概要

- 路線名：一般国道7号 秋田南バイパス
- 延長：約8.5km
- 標準幅員：30m（暫定15m）
- 構造規格：第3種第1級
- 設計速度：80km/h

事業の特徴

(1) 計画路線は、日本海と市街地に挟まれた地域を通過することから、旧秋田空港跡地・自衛隊演習地・ゴルフ場・雄物川放水路事業により旧雄物川となった秋田運河を斜めに横断する路線である。

(2) 臨海大橋付近に市街地での形成がめずらしいサギ類の営巣地（コロニー）が確認されたことから、「環境検討委員会」を設置し、「サギ類との共存」のための工事方法など検討した。移動防止ネットの設置

工事は繁殖期を避ける 施工時の飛翔状況の確認を行い、影響を抑えて工事の完成を果たした。

(3) 当地域は積雪寒冷地であることから、特に、橋梁部での路面凍結による事故等が懸念された。そのため、年間を通して強い風が吹くという特徴を活かし、風力エネルギー（風力発電）による消融雪施設（ロードヒーティング）を臨海大橋に行くこととした。さらに、はまなすトンネル内の照明等にも活用することとした。風力発電で得られる電力量は一般家庭250軒分に相当し、必要電力量を火力発電と比較すると、年間約150tの二酸化炭素（CO₂）を削減することになる。

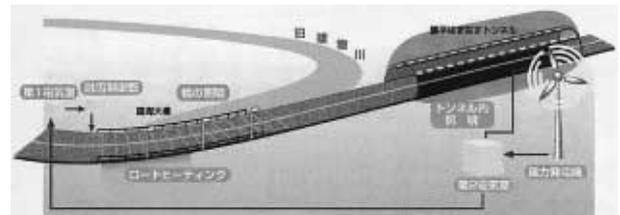
(4) 秋田南バイパスの整備により他路線の交通量が2～4千台/日程度減少し、現国道7



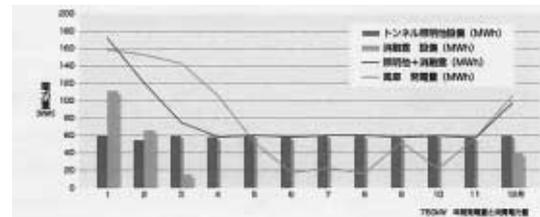
アオサギ（幼鳥）



秋田南バイパスと風車



風力発電とシステム概念図



風力発電の発電量と消費電力量（予測）

号の旅行速度も23km/hから32km/hと大幅に向上した。秋田市街地に集中する渋滞交差点の渋滞も大幅に緩和され、渋滞損失額は年間約50億円削減すると試算されている。

おわりに

近年、世界的に地球環境問題についての関心が高まり、公共事業においても循環型社会、ゼロエミッション・ロードへの取り組みは、今後ますます重要になるものと考えられる。また、当バイパスの整備効果が大きいことが確認でき、地域産業の活性化や交流の拡大等に大きく寄与するものと期待している。

受賞賛助会員 大成建設(株)、(株)長大、西松建設(株)、日本建設コンサルタント(株)、(株)間組、松尾橋梁(株)、(株)横河ブリッジ